花卉園芸新聞

2016年（平成28年）7月15日

東海地域花き普及・振興協

セミナー 日本の花文化と技術

東海地域花き普及・振興協議会（中神享三会長）は6月7日、28年度総会及び研修会を名古屋市北区名城・愛知学院大学名城公園キャンパス「アガルスホール」で開催した。

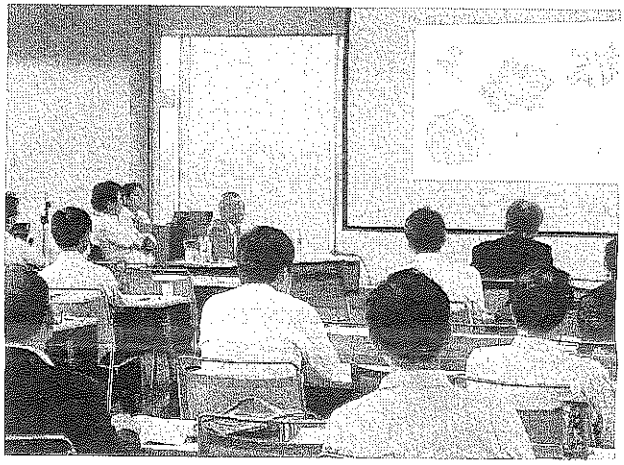
研修会は同協議会と東海農政局、愛知学院大学との共催で83人が参加。花業界に関心がある学生たちも受講した。

基調講演は「世界を驚愕させた江戸（日本）の花文化＝ガーデニングの発祥は江戸だった＝」小笠原左衛門尉亮軒氏（名古屋園芸㈱取締役隠居）。講演「中国における日本の花文化展示」永田晶彦氏（愛知豊明花き流通協組理事長）、「トルコ・アンタルヤ国際園芸博覧会」政府出展状況報告＝江戸時代に花開いた園芸技術と花文化を世界・未来へ＝」西岸芳雄氏（一財）日本花普及センター専務理事兼事務局長。

始めに同大学経済学部経済学科の関根佳恵准教授が「昨年度、名港フラワーブリッジさんの呼びかけで、花の産地である愛知で、なかなか花の消費が伸びないのはなぜということで小売、流通、生産者団体の方、本学学生たちも参加して研究会を開催。また最近いけばなを始めましたが、花の重要性、花のある生活はこんなにも素敵なものだと改めて感じています。本日は貴重なお話をどうぞよろしくお願いします」とあいさつ。

永田晶彦氏

西岸芳雄氏



講演する小笠原氏

小笠原氏は、氏蒐集の「雑花園文庫」所蔵の書籍や刷り物などの画像と共に、江戸時代に生まれた多様な花き品種や、園芸文化の様子を紹介。美しい植物の図譜や、花を愛でる人々の様子、花の名所の図などに受講者は興味深く見入っていた。

永田氏は、愛知県花きイノベーション地域協議会と愛知豊明花き流通協同組合が取り組んだ、国産花きイノベーション推進事業の一つである、中国の北京と開封での日本古典ギクの展示会について報告。

展示会場選定にあたっては「文化レベルが向上している＝花を楽しむ気持ちがある都市を選ぶこと」「花に興味を持つ人が訪れること」などが特に大切とし、「日本の花文化に協調できる相手の協力を得ることが必要」とも。現地と協力した展示品の栽培・仕立てや、古典ギクを一層引き立てる会場構成、キクの特徴を理解してもらうためのパネルなど、設営の様子を紹介。遺伝資源流出を防ぐために、展示品がなくなった場合には罰金を科するなどの契約の必要性、展示後のキク回収を厳重に行ったことなどにも触れた。2会場とも多くの来場があり、非常に反応が良かったという。

また西岸氏は10月30日までトルコで開催中のアンタルヤ国際園芸博覧会について紹介。「アンタルヤは、バカンスになると欧米の富裕層が長期滞在。博覧会場にも多く訪れることが期待される」とし、花き輸出促進の機会にと、10月11日から開催される秋の花きコンテスト（8月末日まで募集中）への出品が呼びかけられた。